

三井物産の 新しい働き方

三井物産では、2016年以降「働き方改革」を推進。多様な「個」である社員一人ひとりが、能力を余すことなく発揮し活躍する環境を整え、会社としての競争力強化に繋げてきた。近年の新型コロナウイルスの流行を奇貨として、働き方改革は次のステージへ。働き方の選択肢を拡充し、「より高い成果」「より創造的な仕事」の実現を目指す。

Speakers



食料本部
戦略企画室
太田采七



エネルギー第一・二本部
戦略企画室
南野 薫



モビリティ第一本部
次世代ソリューション事業部
フリーマネジメント事業室
丹下きさら



人事総務部
Work-X室
長部茉莉子

Theme 1

三井物産の働き方改革

- 2016年4月 時間単位の年次有給休暇(1時間から休暇の取得が可能)
- 2017年6月 個人単位の時差出勤制度(7:45~10:45の間で始業時間を選択)
- 2020年5月 新オフィスへの移転、組織単位のフリーアドレス、Activity Based Working(業務に最適な場を選び、組織力の最大化・価値創造の向上を示す働き方)
- 2021年8月 社長メッセージ「新しい働き方に向けて」
- 2022年1月 リモートワーク制度正式導入※新型コロナウイルスの状況によらない制度



長部



太田

Theme 2

部門横断的な働き方

食料本部は従来仕事が縦割りでしたが、今は中堅・若手社員が中心になって経営課題の解決に向けて組織運営をしています。

Theme 3

コロナ禍における働き方の変化

本業とは別の課題に業務として向き合う機会が増えました。テレワークだと移動時間が短縮されて、空いた時間ができましたね。仕事と距離を置く時間をつくると考えがリフレッシュされて、寧ろ業務効率が向上しました。また、自炊の機会が増えて仕事(食料関係)のアイデアが広がったと思います。



太田



三井物産の新しい働き方

Workplace Plan

CAMP

多様な人々が集まり、価値創造をする場。想定するシーンごとにSOCIAL・CO-WORK・FOCUSの3種を用意。

内部階段

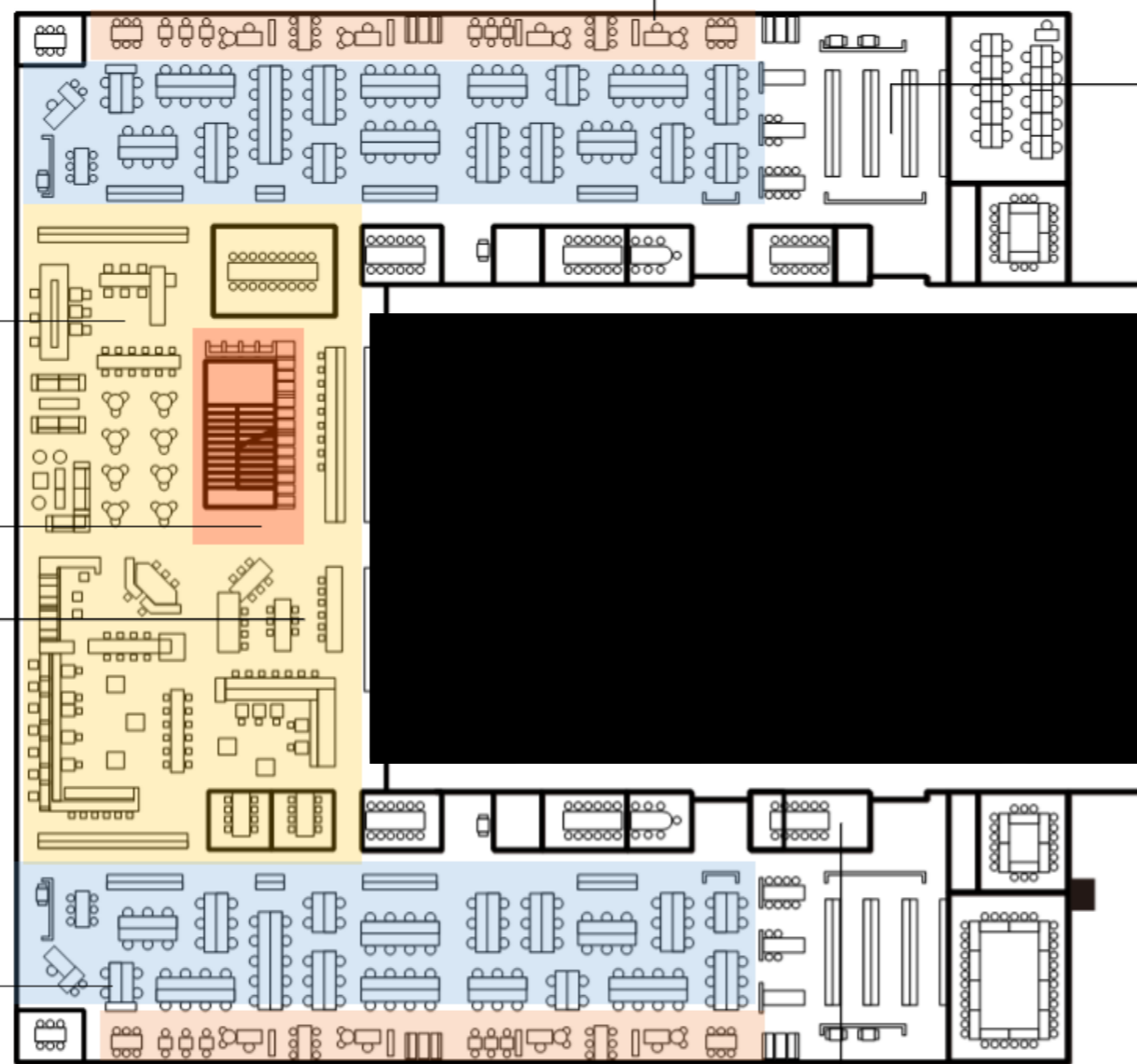
13フロアを繋ぐ内部階段で、上下の交流を促す。

Café Counter

各フロア中央に設け、気軽な交流の場としている。

STUDIO

部署ごとの本拠地・ホームのような場。自分の所属組織の仲間に会える。



TOUCH DOWN

ちょっとした打合せや作業の場

GATE

ロッカー等を設置。出社・退社時に立ち寄る。各フロアにおける玄関のような場。

MEETING ROOM

セキュリティに配慮された会議用の場。来訪者は廊下から入室可能。

出典：三井物産 The Concept of MBK Head Office & New Workstyle

Theme
4

Activity Based Workingとは?



南野

端的に言うと、「どういう仕事をしたいが為にどこで働くのかを決める」ことです。いわゆる“従来型の”座席は在籍者の6割程度で、一定のルールの下フリーアドレス制を採用していて、キャンプと呼ばれる、仕事の内容に適した設備が用意されているエリアの積極的な活用を促しています。キャンプは4種類の仕様があってそれぞれ階が分かれていますので、同じエリアで違う部署の人たちと一緒に利用することで新たなコラボレーションが生まれることも期待しています。

Theme
5

テレワーク環境において、海外との会議の時差はどのように解消しているのか?

時差があることは変えられないので、参加者と相談して時間帯を決めるようにしています。ただ、グローバルに参加者がいる場合だとどうしてもなく、内容や参加者に応じてどこかの時間帯に合わせるしかありませんね。



南野

Theme
6

コロナ禍で社内の報告・稟議等の方法は変わった?



南野

私の所属部署では、コロナ禍を契機とするテレワークへの移行によって働き方はあまり変わりませんでした。というのも、そもそも2020年5月の新社屋移転に向けて、書類の電子化やITツールの活用を進めていたので、それが奏功したかなと思います。

三井物産の新しい働き方

Theme
7

コロナ禍におけるワークライフマネジメント

夫が海外駐在時に時短勤務をしていましたが、コロナ禍でフルタイムに戻りました。丁度テレワークが導入されて、仕事も家事・育児も単位時間当たりのOutputが増えて生産性が高まったと感じます。一方、なかなか出張が難しい時期が続いているので、社外の方との熱意や人間味あふれるF2Fコミュニケーションが減ったことのデメリットも感じますし、投資等の重要な意思決定はやはり現場を見に行かなければならないなども感じています。今後また戻っていききたい点もあります。



丹下

Theme
8

どういう仕事をしたいかで、どこで働くかを定める

主に海外事業を担当しているので、日本の取引先と会う為に出社するという事はあまりありません。でも、現在は週2-3で出社しています。目的としては、ホワイトボードを使ってのプレストや、他部署の方も含めた偶然の会話から生まれる発想を意識しています。



丹下

強い「個」が自らビジネスをつくる三井物産。それを実現するワークプレイス。

New Officeページでは新本社ビルについて紹介しています。

<https://career.mitsui.com/recruit/newoffice/>

